

として表意される言葉だけでなく、言葉を聴取して弁別を行うときの声の大きさや、教師の発問を考えたときの子どもの生活言語レベルなど、学習言語の観点の整理に際して、多くの留意点への配慮が必要であることが気づかされる。教室の中には、教師と数十人の児童が居て、教科書を教材として授業が行われるわけである。そこでは、教師の説明の言葉や発問、子どもからの質問や返答、机や椅子の雑音の中で他の児童の発言を聞き取ること、自分の考えを整理して発言したり他者の意見を聞いて考え直したり、挙手をして発表の順番を待つまじりがあったり、板書を見る指示や音読など、様々な活動が言語活動を重なり合って存在しているわけである。授業研究の研究協議会等では、各教員の経験則に基づいて、授業の重要な点の意見交換を行う活動が行われているが、教師経験や教科の違いなどによって、真意が十分に共有されないこともあるわけである。本研究では、そのような状況を少しでも改善できるように、「学習言語」の分類カテゴリーにつながる検討を行っていく。

3 方法

(1) 授業で使用される教科書及び指導者が使用する言語の把握方法の検討

現在、「学習言語」について明確な定義が存在しないため、研究協力者と検討を行う中で、調査対象の条件をふまえ、仮に定義を行い、実態調査を行うなかで、授業の具体的なことばのやりとり記録を分類し、学習言語の具体的実態をつかむこととした。

①前提条件と「学習言語」の仮定義

日本では、義務教育の就学時点で、「教科書」を使用して、授業が行われる。このときに学習者に必要とされる言語に関するものは、次の3つに集約される。

- ア 教科書教材の中で使用される言葉
- イ 教師が、当該学年に即して授業の説明等に使用する言葉
- ウ 教室の子どもが使用する言葉

以上の、ア・イ・ウの3つの観点の言葉が把握できれば、子どもは学習に支障が無い言語力を有していると推察される。したがって、本研究では、「学習言語」を広義の意味として「学校教育活動の中で使用される全ての言語」ととらえ、実際の実態調査の範囲では、「授業中に使用される言語」として、授業中の教師と子どものやりとりの状況を記録し検討を行った。

② 授業の記録

小学校の授業には、多くの教科と単元がある。その中で、「生活言語」から「学習言語」へ移行する初期の教科学習の授業記録を分析することとした。研究が基礎的段階であることをふまえ、次の点を考慮した。

- ア 言語に関係する教科として「国語」の授業を検討する。
- イ 学年は、話し言葉の生活から文字の学習をおえ、物語文の学習に入る時期の小学校1年生を対象とする。
- ウ 複数の教科書出版社が、教材として扱っている「おおきなかぶ」の授業を記録する。
- エ 基礎的な研究段階として、同じ教材を扱った授業の2例の検討を行う。(男女各1名、計2名の教員)

③ 記録を行う授業の教材について

- ア 東京書籍新編「あたらしいこくご」1上⁹⁾
- イ 教科書の該当箇所
- ウ 指導書に記載されている発問例について

単元	おおきな かぶ	指導書に記載されている発問例と留意点
本時の文章	<p>おじいさんが、かぶの たねを まきました。 「あまい あまい かぶに なれ。 おおきな おおきな かぶに なれ。」</p> <p>あまい、げんきの よい、とてつもなく おおきい かぶが できました。</p> <p>おじいさんは、かぶを ぬこうと しました。</p> <p>「うんとこしょ、どっこいしょ。」 ところが、かぶは ぬけません。 (後略)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「かぶ」とは、どんなものか知っていますか。 ・おじいさんは、どんな気持ちで、かぶの種をまいたのでしょうか。 ・どんなかぶができましたか。 ・かぶが抜けないので、おじいさんはどうしましたか。

教師が教科書を使って学習を行う際には、教科書指導書の発問例や留意点を参考にして授業を行う。ここでは、中心的な心情理解の発問例として『おじいさんは、どんな気持ちでかぶの種をまいたのでしょうか』が示されている。また、そのほかにも、授業導入時の『かぶとは、どんなものか知っていますか』や、読み取り確認の『どんなかぶができましたか』の発問例も示されている。授業の中での「学習言語」の検討を行う際に、この指導書の発問例については、特に心情理解の発問を中心的発問として扱った。また、教材の特徴として『動作化・音読』の工夫についても「学習言語」のなかでどのような扱われ方をするのか配慮をして検討を行った。

④ 検討を行う授業の記録

ア 同じ授業箇所の記録（男女各1名、計2名の教員）

イ 期間 平成22年7月

ウ 地域 兵庫県

(2) 授業の記録に使用した機器と配慮点

① 授業の記録： ROLAND WAVE RECORDER R-09

フォーマット WAV形式、サンプリング周波数16ビット44.1kHz

② レコーダーについては、主に教員の音声を収集するもの1台と、子どもの発言を記録するもの1台を用意し、計2台を同時に使用して、授業の記録を行った。

③ 教員と事前に協議を行った際に、いつもと同じ状態で授業記録を行うという確認のもとにレコーダーの設置は、子どもに目立たないように配置を行った。

④ 教科書指導書については、事前説明を行った。